

シナプス

第215号

明るく 優しく たくましく



学校法人 大東中央学園

大東中央
幼稚園

大東中央幼稚園園長室だより
平成26年9月19日発行

☆園長コラム ☆キンダーカウンセラーコラム
☆担任の保育日誌から ☆身体測定結果

緊張と弛緩が……

〈08/26 年少 大きく成長〉年少最後のプール。一学期のプールでは泣いていた子が、泣かずにスムーズに水に入り、顔浸けまで出来るようになっていて驚いた。夏休みの間に大きく成長してくれていた。制作活動では、時間が押してしまい、給食が部屋に届いたときは、まだ各机が手つかずの状態……。しかし、子供たちはすぐに片付け、食事の用意に取りかかってくれ、あまり遅れることなく「いただきます」が出来た。一学期にはまだ難しかったことが、すんなり出来るようになっていて、子供たちの成長の早さに驚きの一日になった。～子供たちの成長の著しさには、いつも驚かされますが、それだけに、我々が日々提供する教育内容への責任の大きさがひしひしと伝わってきます。

〈08/29 年中 一生懸命〉祖父母へのプレゼント制作に取り組んだが、夏休みが明けて、はさみの使い方がかなり上達していることがわかる。以前は出来なくてぼーっとしてしまいがちだった子も、ゆっくりではあるが一生懸命取り組んでいる姿を見て絶賛だ！しかも最後まで丁寧に組み立てていた。この調子で手先が器用になってほしい。

～なんでも、技術の向上は、繰り返し繰り返しの活動によります。

〈08/29 年長 増えている〉夏期保育であり、毎日が給食。みんなの食べるスピードは増し……食べる量も増えている気がする。メニューにもよるが、今週は全体的に残している量が少なかった。野菜が苦手な、ほぼ毎回の給食を残していた子が、完食しきれないまでも、自分で食べ進めていたり……。鼓隊練習後は、あつさで食欲もいまいちかな？と心配してい

たが、そんなことはなかった！～安心、園児たちそれぞれが、一回り大きいたくましくなって登園してくれたことが何よりです。

歳児別に担任の保育日誌を引用しましたが、ここにあるように、いずれもが夏休みを過ごした子供たちが、目を見張るほどに大きく逞しく成長していることを認めています。

我が子はそうでもないのに、他人の子供の成長がすごく早く見える様なもので、ここには、"しばらく見ないうちに"という条件が入っています。

しかし、園児たちについて考えますと、一学期間の幼稚園生活で、園児たち同士や園児たちと先生と一緒に体育ローテーション・日課活動その他の各種課題活動に連日取り組んで来ましたが、それらはすべて、遊び感覚の活動であるからこそ、園児たちは常に真剣に・興味を持って一生懸命に取り組めます。

また、ある意味、自由遊びの時間内でも、真剣で一生懸命な時間を過ごしますから当然のことながら、園児たちには緊張感あふれる日々が続きます。

この緊張感が見事に解放されるのが夏休み中の家庭生活で、思いっきりお母さん（お父さん）に甘えて、自身の身も心も大いに解放してゆるゆるに弛緩します。

緊張と弛緩が繰り返される生活リズムが、園児一人一人を大きく成長させてくれます。

乾電池の使い方が良い例で、使いっぱなし（緊張の連続）ではすぐに電力がなくなるし、使わずに放置（弛緩の連続）したら、放電して使い物にならなくなるけれど、適度に使った（緊張）り休めた（弛緩）りすることが、一番長持ちする。

家屋でも、使いっぱなしで ⇒次ページへ続く

手入れしなげ（緊張の連続）れば早く痛んでしまし、住まいせずに放置す（弛緩の連続）れば朽ち果てるのが早く、適度に清掃もし手入れもしながら住み続ければ百年二百年を維持することも可能になる。

日本の学校生活は、子供たちの成長にとって実にうまく制度化されていて、日々の学校生活にはもちろん、授業と休み時間が設定されているように、緊張と弛緩の繰り返しがありますが、大きく見れば一学期の授業や各種行事の後の夏休み・二学期の授業や各種行事の後の冬休み・三学期の授業および各種行事の後の春休み、まさに、緊張と弛緩の繰り返しではありませんか。

日々長時間我が子を他人の手に委ねながらお盆休みとお正月休みだけの、親子で過ごす時間が非常に少なくなっている乳幼児施設は、乳幼児たちの緊張感を緩和するための時間が不足が

ちになって、乳幼児たちのより良い成長にはいささか問題があるのではないのでしょうか。

家庭生活に於ける子育てでは、我が子が可愛いからと言って「よしよしよしよし」の過保護の温室育てで子供の心を緩みっぱなしにするのではなく、過干渉で子どもの心に緊張感を与え続けるのではなく、適度な保護可愛がりと適度な干渉の繰り返しが大切です。子どもの良い行動をうんと誉め称えて子供の心をうんと開かせて、子どもの良くない行動には厳しく戒めて我慢・忍耐の心を育むことを常に心がけていただきたいものです。

緊張の連続や弛緩の連続といった偏った子育てにならないように、母親だけが子育てに専念するのではなく、父親もしっかりと子育てに関わっていただきたいものです。 辻本 博人